教育のぼりべつ

平成24年度
第２号
平成24年12月20日

発行　登別市教育委員会　　0143－88－1100　　〒059-0014　登別市富士町7丁目33番地



登別市の学校給食

～ 安心・安全な給食の提供 ～

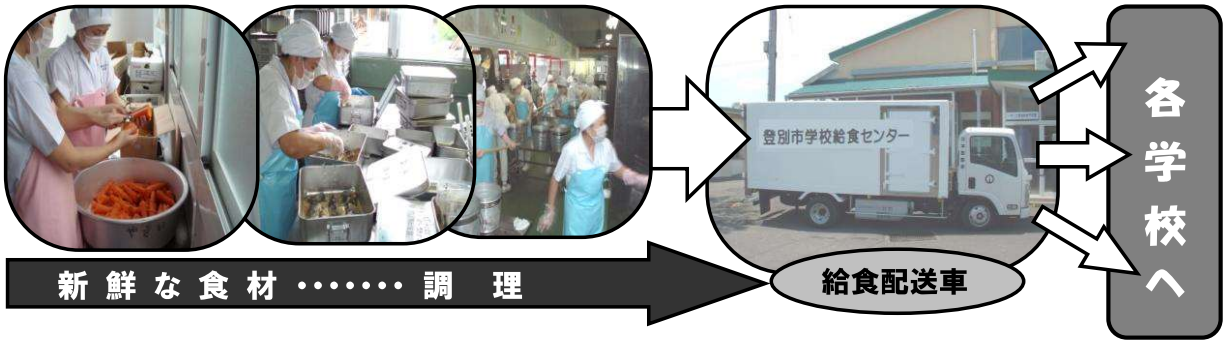
給食センター長の話

給食センターでは、『学校給食衛生管理マニュアル』及び、HACCP（ハサップ※）に基づく衛生管理基準を導入し、徹底した衛生管理で、安心な給食づくりを進めることができる体制を整えています。

また、おいしく安全な給食にするため、食材も十分吟味し、地元産・道内産を多く使用しています。

特に米は、春先は胆振西部地区で収穫された米、秋口からは胆振東部地区で収穫された新米を使用し、新鮮で安全な給食が提供できるよう配慮しています。

※ 製品の最終検査だけでなく、原料の入荷から出荷までのすべての工程で厳密なチェック体制を整え、徹底した管理体制のもと、そもそも不良製品ができないようにするシステム



栄養士に聞きました

Ｑ１　どんなことに注意して、給食を作っているのですか？

Ａ１　最初に、**安全・衛生**です。調理する人の健康・身支度、食器の点検、さらには、食中毒予防の原則である温度管理には十分に気をつけています。

次は**味付け**です。味の感じ方は人それぞれで好みもありますが、多くの人の口に合う味付けを工夫しています。さらに、塩分量にも注意しています。

また、**食材**は、できる限り地元のものを使用するという観点から　①登別産、②胆振管内、③道内産、④国内産という優先順位で準備します。野菜類は近いところのものほど流通に時間がかからず新鮮です。

同時に、**食品添加物**はできる限り少ないものを選び、調理の過程でも化学調味料は使用しないようにしています。

Ｑ２　献立では、どんな工夫をしていますか？また、苦労なども教えてください。

Ａ２　給食は食育の基本です。いろいろありますが、主なものは以下の6点です。

① 所要栄養量の基準を満たしていること
② 季節の食品や行事食を取り入れること
③ 嗜好にあったものも取り入れること
④ 品質のよい食品を選ぶこと
⑤ 衛生的に調理作業ができること
⑥ 決められた給食費の範囲内でできること

どんなに栄養的に優れていても、子どもたちに食べてもらえなければ意味はありません。栄養のバランスはもちろん、喜んで食べてもらえる献立になるよう工夫しています。



給食をとおし、子どもたちが食べ物の大切さを理解し、よりよい食習慣を身につけてほしいと願っています。

シリーズ新学習指導要領 2

授業時数

～ 小・中学校をとおし、すべての学年で、授業時数が増加しました ～

小学校は昨年度から中学校は本年度から新学習指導要領が全面実施になりました。
授業時間数は今回の**改訂のポイント**である、

①教育基本法などの改正で明確になった教育の理念を踏まえた「生きる力」の育成

②知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力などの育成バランスの重視

③道徳教育や体育などの充実による豊かな心や健やかな体の育成

の実現を目指し、小・中学校をとおし、どの学年でも増加しています。

右図の説明

それぞれの学年の１年間の総授業時間数を小学校は6年分、中学校は3年分合計したものです。

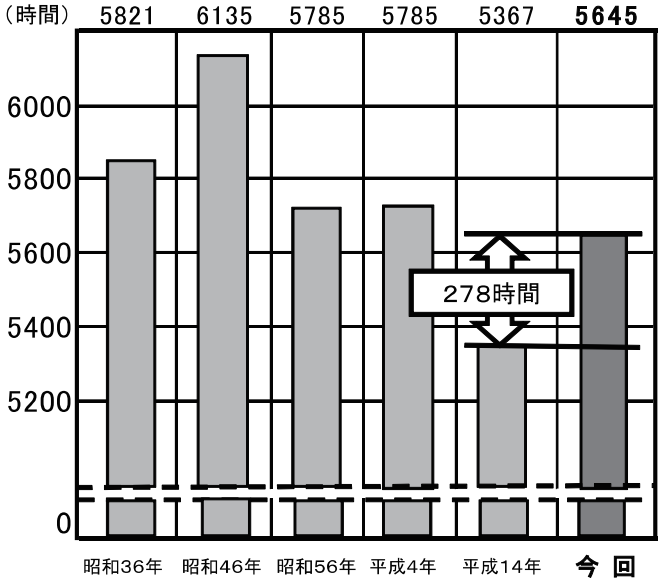
小学校は、今回の改訂では1年生850時間、2年生910時間 、3年生945時間 、4年生980時間、5年生980時間、6年生980時間の合計で**5，645時間**となり、前回の学習指導要領で示されていた時間数よりも278時間の増加です。

中学校は各学年ともに1,015時間ですので、3学年を合わせると**3，045時間**となり、105時間の増加になります。

このことにより、上記の改訂のポイントの具現化など、より確かな教育活動の推進が可能になりました。

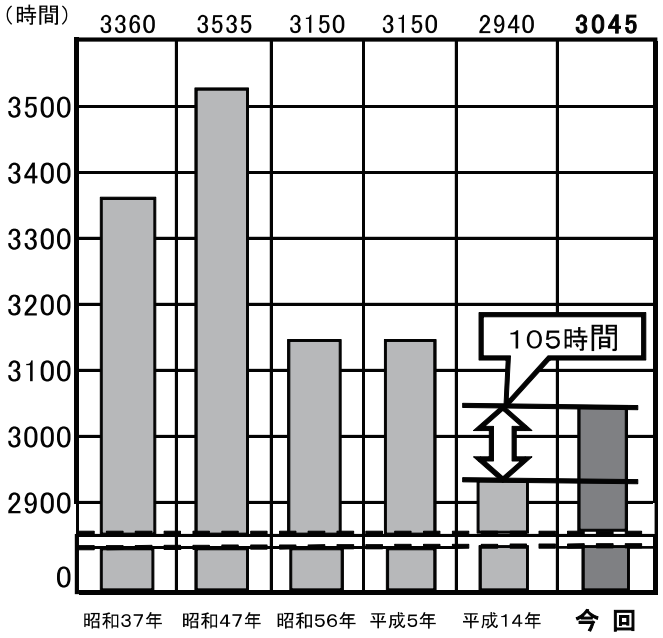
また、市内の各学校では、学習内容の確実な習得のための繰り返し学習など、これまで以上に充実した学習活動を展開しています。

小学校授業時間数の推移（６年間の合計）



※今回の改訂では、外国語活動の時間が追加されました。

中学校授業時間数の推移（３年間の合計）



教育活動の積極的な情報発信のために
『 教育ふれあいウイーク 』を開催しました
平成２４年１０月２９日（月）～１１月２日（金）

市内一斉学校公開（市内各小中学校）


生活科の授業公開



栄養教諭の食育授業


携帯電話教室


武道（柔道）の授業公開

教 育
ふれあい
ウイーク

特別支援教育懇談会
10月29日(月)

市内の障がい者団体と教育委員会が市内小中学校の特別支援教育について意見交換を行いました。

市幼保小中連携懇談会
10月31日(水)

幼児期の教育を担う施設と小学校・中学校が相互に連携し、より円滑に教育活動を推進するための方策を話し合いました。



教育講演会；教育支援協会の吉田博彦（よしだ ひろひこ）氏から、『地域の教育力』について講演していただきました。

協賛・関連事業

特別支援学級作品展




土曜寺子屋

学校支援地域本部事業で、幌別西小学校の子どもたちが対象です。

中学校定期演奏会

○ 緑陽中学校　１０月２１日（日）
○ 登別中学校　１０月２８日（日）
○ 幌別中学校　１１月　４日（日）



ＰＴＡ活動の紹介

第54回　登別市PTA連合会研究大会より

平成24年10月10日（水）18:30～20:30　登別市民会館　中ホール

登別市PTA連合会の研究大会が市民会館を会場に盛大に開催されました。

講師には、「教育・子ども文化・まちづくり」などをテーマに全国的に活躍している新田（にった）新一郎（しんいちろう）氏をお迎えし、「よみがえれ！子どもの笑顔・元気」と題した講演がありました。

参観者からは、

『ふれあう事の大切さを改めて感じました。これからもスキンシップを大切に、面倒と思う子育てではなく、面白いと感じる子育てをしていきたいと思いました』等の感想が寄せられました。



子育ての大切さと、その本質を分かりやすく講演する新田さん

再来年は、全道のＰＴＡ研究大会が“登別市”で開催されます。皆さんのご参加とご協力をお願いいたします。

特色ある教育活動



若草小学校

外部講師を活用した体育の授業





本校では、総合型地域スポーツクラブ「おにスポ」より体育活動コーディネーターを招き、火・水・木の午前中に全学年の体育の授業で、学習サポートを実施しています。

主に、体の調整力を高めるための7つのコーディネーショントレーニング（定位・分化・バランス・　反応・リズム・連結・変換　）を中心に、それらを活動内容に合わせて指導していただいています。

特に器械運動（跳び箱　、マットなど）や陸上運動（走る、跳ぶなど）でリズムやバランス感覚の向上に効果がみられるようになってきました。

さらに、児童一人ひとりに応じた適切なアドバイスで体育活動に対する苦手意識を克服させ、運動することに自信を持たせたり、担任との打合せの中で、コーディネーターの専門的な知識や技能を伝授していただいています。

今後は、スキー学習などで専門的な技術をもった外部指導者を紹介していただくなど、指導技術の向上や人材活用の幅を広げていく予定です。

様々なふれあいを通した豊かな心の育成
～子どもと子ども、子どもと地域の皆さんとの交流　～



鷲　別　小　学　校

鷲別小学校では、様々な体験活動やふれあい活動を通した子ども同士のかかわりや地域の皆さんとのかかわりの中で、豊かな心の育成を図っています。

児童会3役が中心となり、ふれあい活動を進めています。具体的には異学年間での遊びやお弁当交流、全校が一つになってのゲームイベント等です。

これらの取組を通して、いじめをゆるさないという校風が根付いてきています。



ジャガイモパーティー
（６年生と１年生）



下校コース毎に整列

月２回、「子ども見守りたい」の皆さんが下校指導をしてくださいます。

この活動は安全指導が中心ですが、温かい言葉かけもあり、子どもたちと地域の皆さんとの楽しいふれあいの時間にもなっています。

～　教育委員会の動き　～

第8回教育委員会　　１０月１８日（水）

・登別市教育委員会委員長の選出について

教育委員長　垣内（かきうち）　登紀子（ときこ）氏　選出　　職務代理者：千葉（ちば）　泰二（やすじ）氏

第9回教育委員会　　１２月　４日（火）

・暴風雪に伴う停電等の災害に対する市内小中学校の対応について　・教育ふれあいウイークの実施状況について　・全国学力学習状況調査の結果について

話し合いの概要（12月4日の会議から）

- 停電に対する対応は、校長会と連携し、早い段階で臨時休校措置をとったのは非常によかった。何よりも、児童生徒にけがやトラブルがなかったことが一番です。
- ふれあいウイークで、実際の柔道の授業の参観をさせていただきました。
- 学力調査は少しずつ全国に追いついているとの報告をいただきましたが、学校間では差があるようです。先生方には少しでもよい方向に向かうよう指導していただきたい。

垣内委員長あいさつ

本年十月十八日付で教育委員会委員長に垣内登紀子氏が就任いたしました。垣内氏は平成十三年から教育委員をつとめています。

どんなに時代が変わり社会が変わったとしても、子どもたちにはそれらに柔軟に対応しながら、自分たちの夢の実現のために、未来に向かいたくましく生きていく力があると信じています。

私たち大人は、その力が発揮できるように学校・家庭・地域が連携し、それぞれの立場から子ども一人ひとりを応援する教育を進めなければならないと思います。

また、生涯をとおして学んだり、スポーツや文化的な活動に親しむ機会の充実を図ることも大切です。豊かな人間性を育む生涯学習に積極的に取り組みたいと考えています。

皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。